

今回、機関誌の組合員ライターであるわたしたちはこの一年を振り返り、被災地の生協組合員のみなさまに、このメッセージを送りたいと思います。

特集
SPECIAL
EDITION

東日本をおそった未曾有の大震災、あれからもう一年たちました。

わたしたちおかやまコープの組合員も、少しでもお役に立てたらと思い、募金や被災地で生産された商品の利用をすすめてきました。また、「募金以外にできることは?」と、被災地を応援するメッセージと共になでしこの種を贈る活動も行われました。それらはおかやまコープ職員と国際医療ボランティア団体AMDAによって現地に届けられました。AMDAの活動拠点である大槌町の方から「なでしこが花を咲かせた」というビデオメッセージが届いたことを知り、勇気づけられる思いでした。



わたしたちは支援に行った職員の体験を知り、何ともやるせない気持ちになりました。物資の配布時、組合員家族以外のお子さんに「これもらえないの?」と聞かれたそうです。あげたい気持ちはやまやまでも、組合員対象の支援の場合、どうすることもできません。また、「たすけあい共済」に加入している組合員へのお見舞い金給付活動に行った職員は、組合員宅を訪問し、出てこられたお子さんに「お母さんはおられますか?」と尋ねたそうです。すると、津波で流され亡くなったことを知らされ、言葉を失ったそうです。同じ組合員でも「たすけあい共済」に加入していなければお見舞い金を支払うこともできません。

支援から戻った職員は、「こんな時にお役に立てるためにも、もっと多くの人に生協の組合員さんになっていただく」と決意を新たにすると語ってくれました。



カンパを募り、ボランティアで支援に行った職員も何人もいます。いずれの職員も、被害の凄惨さに驚きながらも、被災者の方々の「ありがとう」の言葉に救われたようでした。そして、「自分にできることは?もっと人の役に立ちたい」、そんな気持ちをさらに強くしている様子が報告書からうかがえました。

ただ、あれだけの災害も、時間が経つごとにわれわれは忘れてしまいがちです。東日本が完全復興しても、大切な人を失った方々は、悲しみと一生寄り添って生きていかなければなりません。そういったことを心に刻まなければならないと思うのです。

3月11日はメモリアル・デーであり、新たなスタート地点でもあると思います。1年後、「平和な一年だった」と振り返れることを目標に、平凡な日常に感謝して過ごしたいと思います。

今後の東日本の復興、そしてみなさまの心とくらしの再生をお祈りしています。

2012年3月11日

被災地組合員のみなさま

機関誌 組合員ライターより

東日本大震災から1年 いつも心はそばに

「くらしとなかま」では、おかやまコープの被災地支援を何度か誌面に取り上げてきました。一年の節目を迎え、これまでを振り返るとともに、これからの取り組みをお知らせします。

おかやまコープは、この1年間に次のような支援活動を行いました。

I. 人的支援・物資支援では

時 期	内 容	支 援 先	
3/14	物資支援: AMDA※の要請に応じて緊急支援をしました ※2007年に活動を支援する協定を結んでいます	飲料・カップ麺・レトルト米飯、生理用品 等 4万5,444円(400点)	AMDAを通じ被災者へ
3/17~7/15	人的支援: お見舞い活動、移動販売、店舗支援、共済加入者訪問、仲間づくり支援(第1・2陣のトラック隊は物資支援を兼ねました)	職員10チーム 20名	みやぎ生協・いわて生協・コープふくしま
3/17	物資支援: 支援派遣職員第1陣がトラックで搬送しました	日用品、飲料、カップ麺 等 15万656円	日本生協連を通じ被災生協へ
3/19	物資支援: AMDAの要請に応じて現地スタッフの食料支援をしました	82万5,782円 (約1,000食)	AMDAの現地スタッフ
3/24	物資支援: 支援派遣職員第2陣がトラック搬送し、現地で移動販売しました。売上は全額支援金としました	日用品、下着、卵、野菜 等 14万9,342円	日本生協連を通じ被災生協へ
3月	物資支援: 要請に応じてカゴ車※を提供しました ※荷物を運搬する台車	カゴ車500台	東北サンネット事業連合
7月	物資支援: 要請に応じて喪服を提供しました ※職員を中心に呼び掛け	喪服・靴・バッグ・ストッキング 等 段ボール31箱分(158点)	いわて生協
8・9・10月	人的支援: 被災地ボランティア活動に女性、定時職員も参加しました	職員3チーム18名(8月岩手県6名・9月宮城県7名・10月岩手県5名)	現地ボランティアセンター
2012年1月	物資支援: AMDAの要請に応じて仙台の「震災ホームレス」支援団体へ食料を提供しました	カップ麺1万食	AMDAを通じ被災者へ

II. 募金・支援金では

時 期	内 容	支 援 先	
3/12~10/31	募金: 宅配OCR・店内募金箱で	5,512万4,730円 (わくわくカエル、ポイント券募券含む)	日本生協連を通じ被災地へ
3月	支援金: 要請に応じてAMDA 支援基金から支援金を拠出しました	30万円	AMDA
6月1回~ 12月4回	商品を通じた支援: 宅配・復興支援企画: eats、キャロットの対象商品購入で募金	対象商品利用点数×1円 460万6,477円 (CSネット全体では1,683万6,752円)	コープCSネットから被災メーカーへ300万円、残りは被災地生協に(3/8贈呈)
6月~12月末	商品を通じた支援: 復興支援バンドの収益金	48万2,525円 (CSネット全体では183万3,010円)	
7月	支援金: 経営カンパ	373万1,400円 (日本生協連2011年度会費の6か月分)	日本生協連を通じ被災生協へ
5・7・11月	商品を通じた支援: 店舗「東日本応援セール」売上金の一部を募金しました	15万8,880円	日本生協連を通じ被災生協へ

Ⅲ. 他団体との協同による支援

①AMDA主催

「中学生サッカー交流大会」(8/4)

昼食・飲料・記念品を提供しました。



②ボランティア団体おかやまバトン主催

「福島日本舞踊サークル夏合宿支援」(8/11)

コープ大福で交流会を開き、昼食・おやつを提供しました。

Ⅳ. その他の支援

①ハートフルメッセージ(4月)

組合員・職員から1,300枚超のメッセージが寄せられました。AMDAと被災地支援の職員に託して現地の組合員に届けました。



②ビデオレター(8月)

被災地訪問時、組合員によるビデオレターを「大槌町の夏本団地」「被災メーカー(4社)」へ持参しました。大槌町からお礼のビデオレターが届きました。

③おかやまコープのハッピーフードパーク(10月)

「東日本大震災被災地支援コーナー」を設け、支援活動内容の展示、いわて生協商品の販売、被災メーカー4社によるブース、募金活動を行いました。



④AMDA大槌健康サポートセンター開所のお祝い(12月)

掛け時計と案内看板を贈呈しました。「いつも心はそばに」のメッセージを添えました。



おかやまコープさん、ありがとう!

AMDAボランティアセンター
小池彰和

今やおかやまコープはAMDAの活動にとって不可欠な存在です。如何なる時でもお互いが尊敬と信頼の固い絆で結ばれたパートナーです。

繰り返されたコープさんの救援物資提供のうち、最初にAMDAから積み出した3月14日、次いで19日コープ大福からの大量積み出しのトラック出発を私は見送りました。その後8月の中学生同士のサッカー交流、また12月18日大槌町でのAMDA健康サポートセンター開所式と、折にふれコープさんならではの配慮に満ちた支援を見てきました。

先の長い復興への道のりでまだまだお世話になることと思います。ご指導をお願い申し上げます。

鍼灸治療に来所されている被災者の方のことは

AMDA大槌健康サポートセンターに来所し、治療することで身体が楽になったら心まで癒されます。また、夜眠れ、笑えたり泣けたり、誰かと会いたいと感情を出せる様になったら食事がおいしくなりました。前向きに生活できる、考える場だと思います。



灯油支援に感謝します

コープ東北サンネット事業連合

東日本大震災後初めての冬を迎えて、組合員に安定して灯油を供給し続けることが暮らしを支える生協としての役割であると考え、昨年の11月21日から岩手、宮城、福島3県で、応急仮設住宅にお住まいの生協灯油利用の組合員への「シーズン1回の灯油18ℓ」と「ポリ缶収納ボックス」の無償提供を開始しました。その後、応急仮設住宅以外の被災組合員へも灯油支援を広げました。

2月1週時点で、灯油支援組合員数は、3生協合計で3,659人となっています。東北では3月中旬頃まで寒さが続きますので、生協の灯油事業を通じて被災組合員に対して、できる限りのお役立ちを進めています。温かいご支援を本当にありがとうございました。

灯油利用組合員さんの喜びの声

- ・ポリ缶が無く、買いに行けなくて困っていた所に届いて本当に助かっています!
- ・ポリ缶を玄関の中に置いて狭い思いをしていましたが、ポリ缶収納ボックスを頂いて、カギ穴付きのため、外に置く事ができるようになりました!



東日本大震災支援 「忘れない3.11」 企画

～おかやまコープは継続した支援をしていきます～

東日本大震災から1年を迎え、引き続き復興支援をしていく上で、3月の一ヶ月間を特別に位置づけて、事業を通じて、また他団体との協同で、さまざまな取り組みを行っていきます。

宅配では

Eats表紙・裏表紙と
キャロット企画全品で「1点1円」を
2012年4/1回～2013年1/5回
まで延長します。



- 職員は制服に上右のバッジを付けます。
- 宅配の車両に上左のステッカーを貼ります。

店舗では

右下のポスターを掲示し
東北支援企画と
防災フェア
(3/9～12)に
取り組みます。



2012年度も引き続きご協力を

宅配運営グループ
統括 坂本 昌靖

東日本大震災から1年が経過しました。この1年間、おかやまコープでは震災発生直後の支援物資搬送をはじめ、共済見舞金の給付活動、ボランティアなどの被災地支援活動に、総勢38名が参加しました。支援に参加した職員は、様々な気付きを持ち帰ってきました。そして被災地での活動を通して、長期にわたっての支援の必要性を痛感しています。

宅配事業では、Eats表紙、裏表紙とキャロット企画全品を対象に、ご利用1点につき1円の復興支援金の積み立てを行ってきました。組合員さんのご協力により、支援金は、中四国の9生協全体で約1,800万円、おかやまコープだけでも約500万円に達しています。あらためて皆さんのご支援に感謝いたします。

2012年度も、引き続き4月1回～1月5回の期間、上記企画商品を対象に、復興支援金の積み立てを継続します。復興支援金は、甚大な被害を受けられた取引先や東北8生協に見舞い金として届けられます。

被災地の一日も早い復興への願い。そんな願いをかたちにする一つとして、復興支援金の取り組みが、被災地の方々にとって少しでもお役に立てれば幸いです。

協同の支援の取り組みや企画のご案内

〈岩手県大槌高校吹奏楽部を迎えて〉
AMDAと共催して
演奏会をオルガホールで行います。

〈「こどもたちの3.11震災報告写真展」開催〉
ユニセフの取り組みに、
後援や当日の運営で協力します。

岡山YMCAが取り組む
〈復興支援チャリティーコンサート〉
ご案内
日時:3月16日(金)
岡山市民会館
開演18:30～
大人1000円
子ども500円



3/11に、山陽新聞朝刊「くらしをつくる⑩」
でおかやまコープの支援活動をお知らせします。

この1年、さまざまな取り組みへのご協力をありがとうございました。
支援はまだまだ続きます。
結ばれた絆を大切に、引き続き力を合わせていきましょう。